

拠点における妊娠期からの支援に関するアンケート 2023 調査報告

子育てひろば全国連絡協議会（以下、ひろば全協）の会員の皆様にご協力いただき、地域子育て支援拠点等（以下、拠点）における妊娠期からの支援の普及・啓発のため取組状況についてアンケート調査を実施しました。

すでに73%の拠点が 妊娠期からの支援に取り組んでいます

回答いただいた 200 拠点のうち、すでに 7 割以上が「妊娠期からの支援」に取り組んでいることがわかりました。

一方、第 1 子を妊娠している家庭への広報、行政との連携の難しさが明らかになりました。

今後は、妊娠期から子育て家庭を地域で応援していくために、ひろば全協の「プレママ・プレパパ 応援プロジェクト」を行政や企業に向けて一層の周知を図り、各拠点で妊娠期からの切れ目ない支援が充実していけるよう応援していきたいと思います。

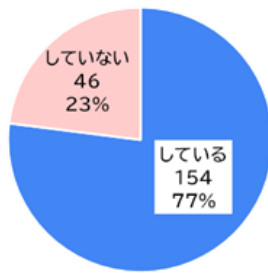
■調査概要

- ・ テーマ 妊娠期からの支援の取り組みについて
- ・ 調査方法 Web アンケート
- ・ 調査期間 2023 年 6 月 26 日～7 月 14 日
- ・ 調査対象 ひろば全協全会員（1450 会員）
- ・ 回答数 200 拠点（地域子育て支援拠点等の子育てひろば）

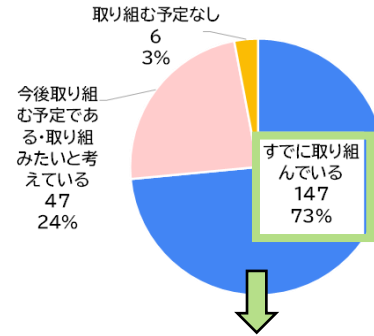


◆調査結果

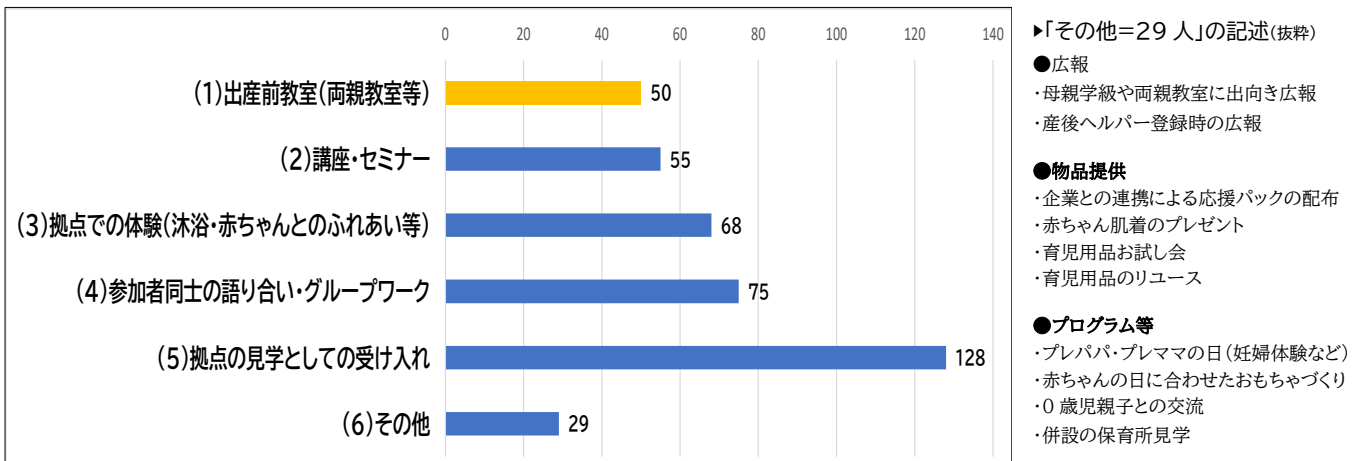
1 拠点で妊娠期からの利用が可能であることを HP やチラシ等で広報しているか



2 妊娠期からの支援の取り組み状況



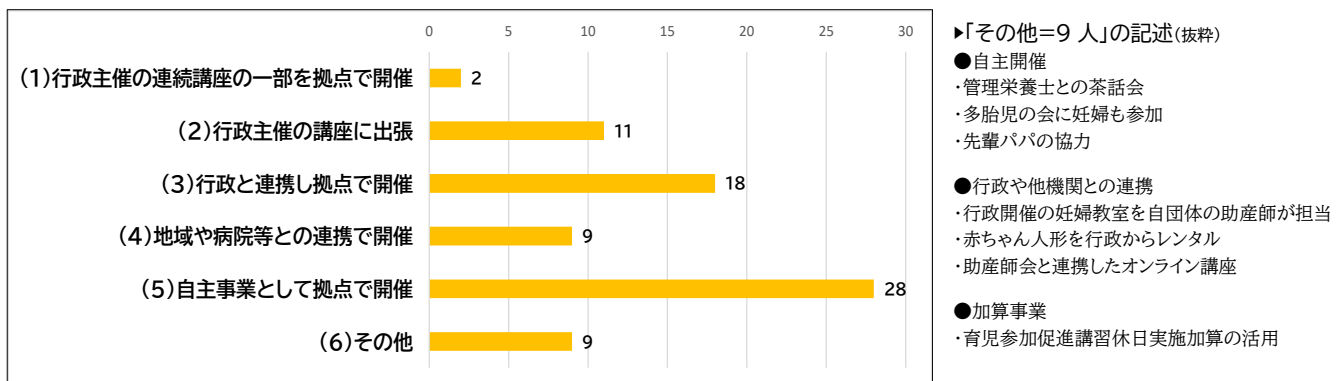
3 「すでに妊娠期からの支援に取り組んでいる」と回答した拠点の取組内容（複数回答可）（n=147）



アンケートから読み取れること

- 77%の拠点が、妊娠期からの拠点利用が可能であることを広報している
- 73%の拠点が、妊娠期からの支援に取り組んでいる
- 出産前教室や沐浴体験などの取り組みも 200 拠点のうち 50 拠点以上が取り組んでいる
- まずは来てもらうことから！プレママ・プレパパにどんな場所か知ってもらい出産後につなげている
- プレママ・プレパパ同士や先輩パパママとの交流を通しての仲間づくりや不安の解消を行っている

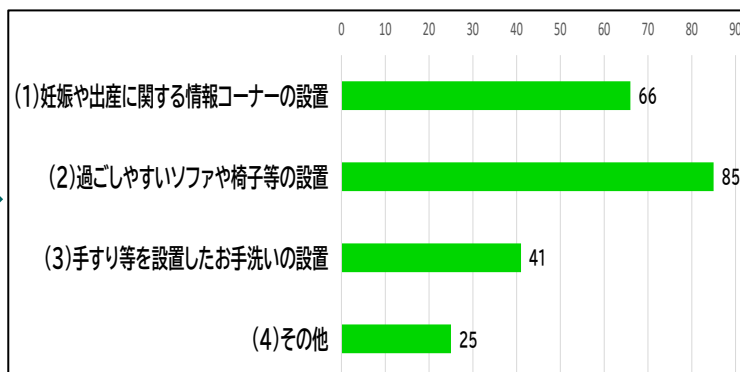
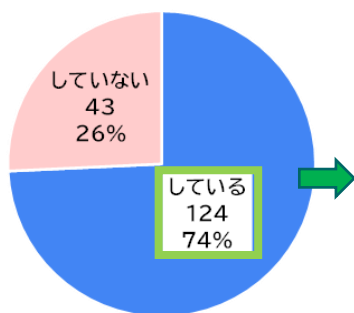
4 「出産前教室（両親教室）を実施」している拠点での実施方法（複数回答可）（n=50）



アンケートから読み取れること

- 出産前教室は半数以上の拠点が自主事業として実施
- 行政と連携し拠点で開催している拠点も一定程度ある

5 妊産婦が過ごしやすいように工夫しているか **6 妊産婦が過ごしやすいように工夫していると回答した拠点が工夫していること** (複数選可) (n=124)



▶「その他=25人」の記述(抜粋)

- 環境設定**
 - ・トイレ等の動きやすいスペースの確保
 - ・授乳室の確保
 - ・椅子やクッションの用意
 - ・カフェインレスの飲み物の用意
- プレママ・プレパパコーナーやイベント**
 - ・リサイクルコーナー
 - ・新生児用品などのバザー
- 相談や情報提供**
 - ・助産師の相談対応
 - ・先輩ママとの交流の設定
- きょうだい児の見守り**
 - ・預かりや見守りのサポート

アンケートから読み取れること

- 74%の拠点が妊産婦を迎え入れる工夫をしていると回答
- 多くは過ごしやすいようハードの整備に努めているが、スペースの関係で難しい拠点もある
- 安心して過ごせるよう相談対応や先輩ママとの交流などを行っている

7 拠点における妊娠期からの支援に関する「課題」や「ご意見」 (自由記述)

▶課題や意見の抜粋

● 広報の課題

- ・子育て支援の拠点として、子ども連れでないと利用できないという認識の方が多い。
- ・産後の利用のためにもっと早く拠点のことを知りたかったという声が聞かれる。どう広報したらいいのか。
- ・広報を行っても参加者が少ない。

● 行政や他機関との連携

- ・伴走型相談支援の面談を拠点で行っているところもあると知り、出産・子育て応援交付金の2回目面談を拠点でできるように市と協議中。
- ・行政と連携した両親学級をひろばで開催することで両親共に出産後もひろば利用がしやすかったとの声も増えた。
- ・医療機関との連携については、ハードルが高いという声が多い。

● 対象者に合わせた工夫が必要

- ・第1子出産では、ほとんどの妊婦が働いているため利用が少ない。
- ・開催日を日曜日にしたり、夜の時間帯にするなど、働いている対象者に合わせた設定をしている。

→利用のきっかけ作りとして、拠点ならではの工夫を行っている

以下のようなプレママ・プレパパ向けプログラムや日常的なプログラムへの参加を促している。

- ・スタイづくり・マタニティヨガ・プレママと先輩ママの日・マタニティカフェ・プレパパサロン
- ・助産師と話そう・妊婦さんの日(日曜開催)・随時沐浴体験・夜の沐浴教室・夜のプレママサロン
- ・リサイクル交換・バザー・抱っこの体験会・プレママ&プレパパのためのひろば見学会
- ・プレママサロン中のきょうだい児の預かり

アンケートから読み取れること

課題の過半数を占めたのは、「参加者が少ない」「情報発信が難しい」「行政などとの連携」など妊娠期からの支援の難しさ。

一方でプログラムの開催曜日や時間帯を工夫することで支援がうまく機能している回答もあった。

総括～「妊娠期の家庭のために拠点ができること」を応援します～

■アンケート結果を受けて

今回のアンケート結果では、回答した拠点のうち73%が妊娠期からの支援に取り組んでいることがわかり、妊娠期からの切れ目ない支援がすでに多くの拠点で実施されていることがわかりました。一方で以下のとおり、支援を実施するにあたっての課題等が見えてきました。ひろば全協では、妊娠期の家庭のために今後も拠点でより効果的な支援が行えるよう、以下の取組を行うこととします。

—課題の整理とひろば全協の取組—

課題1. 第1子妊娠中のプレママ・プレパパへの周知の強化

広報を行うものの、特に第1子妊娠中の家庭への周知の難しさや、参加者が少ない等の課題を多くの拠点が抱えていました。

取組①▶企業や企業の従業員に向けた取り組みの発信をしていきます。

就労中の場合が多い第1子妊娠中の家庭に情報を届けるために、企業向けリーフレットの配布やWEB、SNS等での発信を行い、拠点の利用を促します。

課題2. 行政等との連携

広報や出産前教室の実施も含め行政等との連携は必須だが困難さを感じていました。

取組②▶行政の母子保健分野との連携による切れ目ない支援が行えるよう働きかけます。

国への提言も含め、各拠点が制度をうまく活用できるように情報提供を行うとともに、行政にも拠点の活動のアピールをします。

課題3. プレママ・プレパパのニーズに沿う工夫

就労中の妊婦と開設日や時間帯が合致しないなど、妊娠中の家庭を受け入れる工夫がさらに必要であるということがわかりました。

取組③▶妊娠期の家庭を迎える拠点の環境整備を推進します

拠点と妊娠期の家庭のニーズの不一致を解消するため、土日加算を活用したプログラムの推進や支援がうまく機能するよう従事者向けの研修（プレママ・プレパパ向け講座のためのワークショップ）を行います。

<御礼：アンケートに回答してくださった皆さま>

アンケートに回答してくださったひろば全協会員の皆さま、本当にありがとうございました。

ひろば全協では、「プレママ・プレパパ応援プロジェクト」を立ち上げ、動画やポスター、WEBサイト作成等に取り組んで参りましたので、多くの拠点がプレママ・プレパパの支援に取り組まれている調査結果は、大変喜ばしいことでした。

その一方で、プレママ・プレパパの利用数が増えないという現場の試行錯誤や課題もしっかり受け止めたところです。

今後は、さらに自治体、企業等に働きかけを行うなど、会員の皆さまとともに積極的なアクションに取り組みたいと考えています。

妊娠期の家庭が地域とつながり、安心して子育てできる社会となるために、これからもプレママ・プレパパへの応援をよろしくお願いいたします。

NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会
〒222-0037 横浜市港北区大倉山 1-12-18-303
TEL:045-531-2888 / 045-546-9970 FAX:045-512-4971
Mail:info@kosodatehiroba.com
https://kosodatehiroba.com

2023年8月